

循環器内科(後編)

県立多治見病院には、現在11名の循環器内科医師が常勤しております。

循環器内科の対応疾患は、多岐にわたりますが、代表的なものに、全身の動脈硬化に伴う疾患の診断、治療があります。動脈は、3層構造になっており、血流に一番近い内膜にコレステロールなどのドロドロの粥状物質がたまってアテローム(粥状腫)を形成します。これが、次第に肥厚し、動脈の内腔を狭め、狭心症、下肢閉塞性動脈硬化症をおこします。(詳細は第30号をご覧ください)

動脈硬化の原因

因は、脂質異常症、糖尿病(耐糖能異常)、高血圧症といった生活習慣病、喫煙習慣があります。食生活の欧米化、車社会による運動不足で、わが国でも動脈硬化疾患が増えています。



図1

今回は、下肢閉塞性動脈硬化症について説明します。
症状は、歩くと、足の痛みが出現し、休むとやわらぎます。また、足の潰瘍、壊疽が起ることもあります。下肢を栄養している動脈(図1)が閉塞、狭窄する疾患です。診断は、問診、触診、血圧脈波、血管エコー、下肢動脈CTが有用です。

① 腸骨動脈病変

CTで大動脈から腸骨動脈の強い石灰化を認めます。(図2)。



図2

大動脈直下で足へ向う動脈(腸骨動脈)が閉塞・狭窄していました。(図3)。



図3

カテーテルを用いて、ステント(金属の金網)留置に成功し、足の症状が改善しました。(図4)。



図4

② 大腿動脈病変

CTで右大腿動脈が閉塞しています。(図5)。



図5

バルーンを用いて動脈を拡張させました。(図6、7)。足の痛みが改善し、たくさん歩けるようになりました。最近では、大腿動脈へのステント治療も可能です。



図6



図7

③ 膝下動脈病変

右足の潰瘍で受診されました。

足先へ向う動脈が閉塞しています。(図8)。



図8

細長いバルーンで拡張しました。(図9)。



図9

右足に十分な血液が来ています。(図10、11)。右足の潰瘍も治りました。



図10



図11

人間にとって、足は重要です。第二の心臓とも言われています。皆さん、たくさん歩いてください。でも、歩いて足が痛くなる方は、ためらわず循環器内科にご相談ください。その足を治すため、循環器内科は頑張ります。